

シンポジウム：スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2017 参加報告

技術第2班 鈴木 大介

1. はじめに

現代のスポーツやレジャーは、用具・設備・施設のハードウェアを抜きにして考えられないほどに、その依存度が高くなっている。また、このハードウェアの高性能化や安全性と快適性の向上には使用者である人間のダイナミクスが考慮されなければならない。本シンポジウムは、これらの問題に関連したスポーツ工学とヒューマンダイナミクスの研究を報告し合い、研究者が交流できる場と機会を提供するために開催されている。

2. 日程

平成 29 年 11 月 9 日(木)～11 月 11 日(土)

3. 会場

金沢市商工会議所会館

4. 研修内容

2 日目より参加した。以下に、今回の行われたセッションについてまとめる。

<2 日目>

「起立，ランニング」

「テニス」

「骨，筋力」

「衣服，体温」

「歩行解析」

「サッカー」

「野球」

「運動，力学，評価」

「シューズ」

「バドミントン」

「生体モデル，スイミング」

「保護具，緩衝性」

「歩行，ランナー」

「空力，飛翔」

「あん馬，棒高跳」

「関節，動作，呼吸」

特別講演：パラリンピック - パラアスリートにみる脳の再編能力 -

<3 日目>

「足圧，バランス」

「車椅子」

「雪面，カーリング」

「プレー，心理分析」

「慣性センサ，モーションキャプチャ」

「ゴルフ」

「運動アシスト」

「義足・装具，膝関節」

特別講演：Computer-Aided Rehabilitation Engineering 基盤技術構築に向けた取り組み

発表セッション：

「慣性センサ，モーションキャプチャ」

発表題目：

剣道の正面打ちにおける

各身体部位の動作

5. おわりに

2 年ぶりに本シンポジウムに参加し、自身の研究について発表した。多くの質問やご指摘をしていただき、今後の研究に生かしていきたい。さまざまな分野のセッションに参加し、解析方法や実験装置についても学ばせていただいた。また、企業が展示している最新の解析装置やソフトにも目を通し、今後の研究でも検討することができると考えている。これから、新たに検討している研究をしっかりと遂行し、次の発表会に繋げていきたいと考えている。